

主 題：キリストのからだを建て上げる**聖書箇所：エペソ人への手紙 4章11-16節**

神は浜寺聖書教会がどのような教会となることを求めておられるのか？そのことについて私たちは今から学んでいきます。言い換えれば、「父なる神に喜ばれる教会」となるためには何が必要なのか？そのカギについてみことばを見ていきます。主に喜ばれる教会になるとか、教会の成長ということは教会にとって関心の高いテーマです。多くの教会成長のプログラムなどが紹介されています。私たちが今から見ていくのは、そのようなプログラムではなく、そのことについて教えているパウロのことばです。パウロは主に喜ばれる教会となるためのカギは、クリスチャンひとり一人が霊的に成長することであると教えています。ですから、教会の霊的成長ということや、主に喜ばれる教会へと変えられていくために必要なことは、人間が考案するプログラムでも、人間的な成長戦略でもありません。あなたが主に喜ばれる人、主に喜ばれる信仰者として成長し続けることです。そのことなくしては教会の成長を見ることはないのです。これが聖書が教える神のプログラムであり、神の教える成長戦略だとパウロは教えてくれます。

今、私たちはエペソ人への手紙を見るのですが、パウロはこの1章から、神の教える救い、私たちがいただいた神からの救いがどんなにすごいのかを教えようとしています。そして、4章からは、それを知ったあなたがどのように生きるべきかを教えています。パウロはことばを変えて同じことを繰り返して読者に教えています。救われたあなたはどのように生きていくべきなのか？ですから、4：1には「…その召しにふさわしく歩みなさい。」と書かれています。5：1には「…神にならう者となりなさい。」と、5：8には「…光の子どもらしく歩みなさい。」とあります。ですから、救われた人としてそれにふさわしく生きていきなさいとパウロは教えるのです。

なぜ、救われた人が、つまり、信仰者であるあなたが救われた者にふさわしく生きていくことが大切なのか？それは、人は必ず周りの人たちに良きにつけ悪しきにつけ影響を及ぼすからです。家庭であっても社会であっても教会であっても、確実に私たちは周りの人たちに影響を及ぼしています。ということは、良い影響を及ぼす人たち、特に、教会を考えたときに、主に喜ばれることを行なっている人たち、主の栄光を現わすために一生懸命に生きようとしている人たち、そういう人たちが多ければ多いほど、教会の内外を問わず、確実に周りの人たちに良い影響を与えることとなります。教会の中に、神に喜ばれることを本当に願ってそのように生きている人たちが多くなればなるほど、間違いなく、その教会は内に対して外に対して良い影響を及ぼしていきます。

だから、みことばが教えることは、もし、私たちが主に喜ばれる教会を造りたいと願うなら、教会の中に主に喜ばれる人たちを増やすことです。なぜなら、主に喜ばれる教会とは、主に喜ばれる人たちが多く集うところだからです。ですから、信仰者であるあなたの責任は非常に大きいのです。あなた自身が信仰者としてしっかり成長していくこと、それはあなただけでなく、教会全体にとって大きな祝福となるのです。そのことをまず私たちは覚えていることが必要です。

ですから、パウロは私たちに、主に喜ばれる教会を私たちが造り上げていくなら、あなたの信仰の成長が必要であると教えます。今から私は、そのことを実現するために神が備えられた深遠、かつ、完璧なご計画をあなたに教えていきます。

☆主に喜ばれる教会を建て上げるために**A. 教会に賜物を与えられた：働き人 11、12 a 節**

神があなたのためにどんなことを為されたのか？パウロはそのことを教えています。11節「こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。」と書かれています。あなたのために「賜物」を与えたということです。どこに？教会にです。つまり、神は教会に「働き人」を送られたということです。あなたの信仰が成長していくために、神は「働き人」という賜物を教会に送られたのです。それがこの11節が教えることです。ここにはその「働き人」の種類が記されています。

1. その種類 11節

1) 使徒：イエス・キリストの復活を目撃し、神によって選ばれた12使徒とパウロです。彼らは神から特別な働きのために召された働き人でした。

2) 預言者：彼らは神からのメッセージを語ったのです。神の真理を伝えたのです。この当時、初代教会もそうですが、まだ、私たちが手にしている新約聖書は完成していません。今の私たちは神のみ

こころを知りたいと思うなら、神のおことばを通して知ることができます。でも、その当時はこのような働き人が必要だったのです。彼らは神からのメッセージを人々に伝えたのです。エペソ2：20で「あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」と、このようにパウロは教えています。キリストの上に教会が建てられていくのです。その働きをしたのは、使徒たちであり、また預言者であると言います。というのは、このような働き、また、このような働き人は現在存在していないのです。使徒の働き13：1-3には「1 さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという預言者や教師がいた。2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。」と書かれています。

そして、今も存在している働き人が次に書かれています。

3) 伝道者 : 救いのメッセージを語る人たちです。

4) 牧師・教師 : 「牧師・教師」と書かれているその前には定冠詞が一つしか付いていません。ということは、パウロはここでこれらは二つではなく一つの職務だということを教えているのです。彼らは教会にあって「牧師・教師」である、つまり、羊であるクリスチャンを養い教えるという働き人です。

2. その目的 : 霊的成長を助けるため 12 a 節

神はこのような人たちを教会に送ったと言います。それは、先ほども見たように、あなたの信仰の成長のためです。そのことが12節の初めに書かれています。「それは、…」と理由です。「聖徒たちを整えて…」と、この働きのためにこのような賜物を神は教会に遣わしたとパウロは教えるのです。この「整える」ということばは医学の専門用語です。「骨をつなぐ、完全に、ふさわしいものとする」という意味をもったことばです。ですから、クリスチャンたちを完全にしてい、彼らをふさわしい人にしていく、また、働きに用いられる者にしていくと、そのような意味をもったことばをパウロはここで使っています。ですから、成長させていくということです。働きにふさわしい者にしていくということです。

そのために、この牧師・教師たちに与えられている最も大切な務めは、神のおことばを正確に伝えることです。なぜなら、信仰の成長は神のおことばによって起こるからです。ですから、神のおことばを正確に伝えていくという大きな責任を牧師・教師たちは負っているのです。もちろん、信仰が成長するためには、それを聞いた皆さんにも大きな責任があるということはもう皆さんよくご存じです。みことばをただ聞くだけでは成長しません。聞いたことを実践しなければ信仰は成長していかないのです。

ですから、成長するためにこのような働きが与えられているということが記されていました。

3. 成長した信仰者の特徴 : あなたはこのような信仰者へと成長する 12 節

12 節「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」と、二つ書かれています。

1) 奉仕を為す

「奉仕の働きをさせ、」とあります。見ていただきたいのは、では、奉仕の働きするのはだれか？ということ。牧師・教師たちがみことばを教えて、それによって聖徒たちが奉仕をするのです。聖徒とはクリスチャンです。救われているあなたに対してみことばはどのように教えるのです。あなたが奉仕の働きをするのだと。すべてのクリスチャンが例外なくするのです。ですから、教会はある特定の人たちだけが奉仕する場所ではありません。私たちは天に召されるまで奉仕をするのです。では、なぜ、皆さんにこの責任が与えられているのか？それは、

*すべてのキリスト者には「霊的賜物」が与えられているから

4：7をご覧ください。「しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」とあります。一人ひとりのクリスチャンに霊的賜物が与えられているということは、神はあなたをお用いになるということです。だから、私たちはみな奉仕者なのです。次のみことばには賜物のリストが記されています。

ローマ12：6-8 「6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は喜んでそれをしなさい。」

1コリント12：8-10 「8 ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、9 またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、10 ある人には奇蹟を行う力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。」

1コリント12：28-30 「28 そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一

に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行う者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。:29 みなが使徒でしょうか。みなが預言者でしょうか。みなが教師でしょうか。みなが奇蹟を行う者でしょうか。:30 みながいやしの賜物を持っているでしょうか。みなが異言を語るでしょうか。みなが解き明かしをするでしょうか。」

I ペテロ 4 : 9 - 11 「:9 つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。:10 それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」

これらの賜物は、あなたが持って生まれた性質ではありません。なぜなら、たとえば、分け与える人などはクリスチャンでない人たちの中にもたくさんいるからです。惜しみなく人々に分け与える人たち、慈善活動に熱心な人たちがそうです。また、持って生まれた才能でもありません。なぜなら、霊的賜物は聖霊によって与えられるものだからです。あなたが主イエスによって救いに与ったときに、聖霊なる神をいただいた、同時に、あなたにはこの賜物が神によって与えられます。私たちは少なくとも二つ以上の賜物を持っています。その複数の賜物が見事にブレンドされています。その賜物はあなた独特のものであります。みな違うのです。

神はそのようにしてあなたを用いようとしておられます。何のためにそのような賜物が神によって与えられているのでしょうか？みことばが教えるように「奉仕をするため」です。それがこのみことばが教えることであり、そして、信仰の成長とともに、その人たちは喜んで主に仕え、教会の中でいろいろな奉仕を率先して為していきます。

2) キリストのからだを建て上げる

もう一つの特徴は「キリストの教会を建て上げる」ことです。

***これは「教化」のこと、教会の兄弟姉妹たちが信仰において成長するために尽くすことです**

ですから、この12節のみことばが教えることは、神は教会に牧師・教師を送られた、みことばを教えるため、それによってひとり一人が成長していくためであり、そのひとり一人が神からいただいた賜物を用いて教会で奉仕をする、同時に、そのひとり一人が兄弟姉妹の信仰の成長のために尽くしていく、そのことです。そして、そのことを実践している人たち、まさに、それが信仰において成長した人たちの姿だと言います。

繰り返しますが、教会が成長していくために、この私たちの教会が神に喜ばれる教会となるためには、プログラムが必要ではないのです。あなたが変わることです。私たちが神に喜ばれる者へと成長していくことによって、この群れ全体が成長していくのです。みことばの教えに従うことによって成長しているクリスチャンは、主から与えられた霊的賜物を用いて教会で奉仕をします。また、他の兄弟姉妹の霊的成長のために働きます。これは弟子作りです。そうすると、群れ全体が成長するのです。

⇒これらは、ある特定の人たちにだけ与えられた働きではありません。各クリスチャンに与えられた働きであることを忘れてはならないのです。これが神が望んでおられることです。

B. 霊的成長をした教会の四つの特徴 : 主なる神の喜ばれる教会 13-15節

13節からパウロは、成長した教会の姿を私たちに示してくれます。どのような教会が成長した教会か？四つの特徴があるので見てください。そして、神が喜ばれる教会と今の私たちを比べてみるのです。完全というには程遠いものです。でも、目標は据えられましたから、このみことばを通して、どのようにしてその目標に近づいていけばいいのか？みことばはそこまで教えていますから、見ていきましょう。

1. 主イエスを知っている教会 13節

13節「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、…」とあります。その群れには「信仰の一致」と「知識の一致」があると言うのです。

1) 信仰の一致

聖書が教える真理において教会が一つになっているということです。しっかりと真理を教えられた教会は各信仰者がその真理を共有し、それにおいて一致しているのです。つまり、神が喜ばれる教会、成長した教会は、みなそれぞれ異なった教えや考えをもって教会の中が混乱しているような教会ではないのです。一致しているのです。神の真理が教えられ、その真理を学んで、私たちはその真理において一致しているのです。そのような教会だとまずパウロは教えます。そのことにおいても、教会は真に神のことばを正しく伝え続けていかなければいけません。それによって人々が成長し、それを信じる信仰において一致していくのです。

2) 知識の一致

聖書の教えの真実さに確信をもっている教会です。「知識」ということばを聞くと、私たちはたくさん知識を蓄えることと思ってしまうかもしれませんが、ここで言われているのはそのことではありません。学んだことを実践することによって、神のおことばに確信を持っているということです。たとえば、神はあ

あなたの人生に関心をもっておられます。みなさんはその通りと言われるでしょう。なぜなら、神はあなたのために救い主を備えてくださり、あなたを生まれ変わらせてくださったからです。それがゴールではありません。今見て来たように、皆さんには特別な賜物が与えられているのです。それをあなたが用いることによって神はあなたの生活を通してご自身を明らかにしようとされているのです。

そうすると、私たちはいろいろなことを教えられますが、その教えられたことが日々の生活を通して確信となっていくことが大切なのです。神が導いてくださるということを知っていても、神の導きを一度も経験していなければどうでしょう？確かに、「神は導いてくださる」と知識として伝えることはできません。でも、確信のないメッセージは弱いのです。つまり、神は確かに私たちを導いてくださる、そして、私たちがそのように歩んで行くときに神は確実にあなたを導いてくださる。それを通して、本当に神が言われていることは事実だ、神は本当に生きておられて私のような者に関心を示してくださって、この道だ、この道を歩みなさいと教えてくださる。そのようなことを私たちは日々の生活を通して学べるのです。これはほんの一例に過ぎません。つまり、聖書が教えていることを私たちが実践することによって、私たちは本当にそうなのだという確信を増していくのです。

神は「必要を満たす」と言われた。みな知っています。でも、そのことを本当に確信しているかどうかは毎日の生活でそれをトライしてみなければ自分のものになりません。私の必要に対して神の前に祈ったときに、神がその必要を満たしてくださったときに私たちは確信を持ちます。知識をたくさん持っているクリスチャンは多くいるでしょう。でも、それを本当に確信しているクリスチャンがどれだけいるか？です。彼らはみことばを実践しています。そして、本当に神が言われた通りだという確信を持っています。成長した教会はそのような人たちが集まっています。恐らく、その人たちが集まったときの話題は「本当に神はすごいですね！このようなことをしてくださった。時には、私が罪を犯したときは神は責めてくださって真理を悟らせてくださった。神は生きておられる！」と、それがその人たちの会話であり、そうしてお互いの信仰を高め合っているのです。

うわべだけの交わりではないのです。本当に主がすばらしい方だということを確認している者どうしが、神のすばらしさを証し合っているのです。

2. 主イエスが顕現している教会 13節

その群れを通して、主イエスが明らかに示されている教会です。13節の後半「…完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」とあります。主イエス・キリストを信じたあなたは、主イエス・キリストに似た者へと変えられるそのプロセスを経験しています。主はあなたを日々変えていってくださる、そして、イエスに似た者へとあなたを変え続けてくださる。ある神学者が「クリスチャン生活とは、キリストに似た者へと日々変えられていくことである。」と言いました。そのことを考えてください。私たちはそのように生まれ変わりそのように日々変えられていきます。ゴールはイエスに似た者に変えられることです。そのプロセスを私たちは今経験しているのです。

主はあなたを変えようとしておられる、主はあなたを主イエス・キリストに似た者に変えようとしてくださっています。あなたが成長することによって、あなたを変え続けてくださっている主が周りの人たちに明らかにされていきます。あなたのうちに生きて働いておられるその神の臨在があなたを通して明らかにされていくのです。

成長した教会というのは、主を知らない人たちがその教会に集まったときにそこにイエスを見る、そのような教会です。なぜなら、先ほどから話しているように、成長したクリスチャンはその生活を通して主イエス・キリストを明らかにするからです。そのような人たちが集まっている教会なら、間違いなく、人々はそこに主イエスを見るのです。そのような教会が霊的に成長した教会であると。

3. 真理に堅く立ち、妥協しない教会 14節

正しい教理に立つ教会です。続いて14節に「それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたせられたりすることがなく、」とあります。パウロの時代でも実際にあったのです。いろいろな教えが教会の中に入り込んで来た、異端が入り込んで来るのです。どの時代でも同じです。サタンは巧妙に誤った教えを教会の中にもたらして来ます。今、私たちが公の新聞や雑誌にクリスチャンと名の付くものがたくさんあっても、それを見るときに気付くことは、教理を度外視しているということです。キリストという名のもとにいろいろなものが集まっています。つまり、何が起きているのか？神の真理、教理に対する妥協です。

クリスチャンなら何でもいいでしょう、イエス・キリストを信じているのだから何でもいいでしょうと、だから、いろいろな教えが入って来る度に日本の教会は右に左にと揺れ動くのです。多くの牧師たちが何かが発表されるとそれに飛び付くのです。みなが思っていることは、そのようなプログラムを導入さえすれば教会は成長する、主に喜ばれる教会になるということです。いいえ、聖書のみことばを見るなら、どうすればいいのかは神ご自身が教えてくれています。人間のプログラムではありません。そ

の教会がしっかりとみことばに立ち、神の真理に立って、どんな誤った教えが入って来ても揺るがされない教会、それが神が喜ばれる教会です。Ⅰヨハネ2：14をご覧ください。「小さい者たちよ。私があるあなたがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があるあなたがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があるあなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。」と、ヨハネもこのように教えています。

4. 神への愛がすべての動機となっている教会 15節

15節「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」、教会のすべての働きのその動機は神への愛なのです。パウロは言います。「愛をもって真理を語り、」と。パウロほど真理を重んじた人はいないかもしれません。彼は徹底的に真理を伝え続けました。ペテロが妥協したときにはあのペテロに対してでも彼を責めました。でも、パウロは言います。「真理を語ることは大切だけれど、そこに愛がなければ何にもならない。」と。どんなに大切なことをしていたとしても、「愛」がなければそれは空しいことだと言います。

皆さんもよくご存じのように、Ⅰコリント13章は愛について話しています。そこでパウロは大切なことを教えています。特に、12：2、3には「2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」とあります。この「山を動かすほどの完全な信仰」とはことわざ風の表現で、敢えて、それを使っています。言いたいことは、「不可能と思えることを可能にする、たとえば、そういうことができたとしても…」と、そのような信仰をもっていても、愛がなければ何の値打ちもないということです。3節でも、たとい、だれかのために大変な犠牲を払ったとしても、そして、信仰のために自分自身が殉教したとしても、愛がなければ何の役にも立たないと言っています。

2節の「何の値うちもありません。」と3節の「何の役にも立ちません。」は同じギリシャ語です。つまり、どんなにすばらしいことをしていても、信仰者としてすばらしい働きをしていても、どんなに立派な奉仕をしていても、どんなに知識をもっていても、愛がなければすべて価値がないということです。知識をもっている人たちはたくさんいました。パリサイ人も律法学者もそうです。人間的に言うなら、彼らはすごい信仰者です。でも、神が彼らをお喜びにならなかったのはなぜでしょう？彼らの中には神への愛がなかったからです。つまり、私たちの教会を見ても、皆さんは信仰者として一生懸命歩んでおられるけれど、その歩みの中に「神を愛するからやっている」というのでなければ、義務感でやっているなら、それは神に喜ばれません。神を愛するからすべてのことをしているとすれば、それがどんなに小さなことであっても神は喜んでくださるのです。

ですから、みことばは私たちに問い掛けます。あなたのしていることは神への愛が動機ですか？神を愛するからそれをしてしているのですか？神を愛するからこうして集まって来るのですか？神を愛するからあなたは集会に来るのですか？神を愛するから奉仕をするのですか？神を愛するから伝道しているのですか？あなたの働きの、いや、あなたの人生の動機というのはいったい何ですか？と、神は問うておられます。神が喜ばれる教会は、主を愛するゆえにすべてのことをしている、そのような人たちが集まっている教会です。だから、そこに新しい人が来たときにそこに見るのは何か？愛です。

先ほども見て来たように、私たちはこの地上にあってキリストに似た者に変えられることによって、私たちのうちにおられるイエス・キリストを明らかにしていきます。私たちはこの地上にあって、それが教会でも家庭でも職場でも学校でもどこでも、神を明らかにしていくのです。私たちが信じる神はどのような神ですか？愛の神です。神の属性の一つです。私たち信仰者だけです。神の愛を受け入れた者たちだけが、神の愛を知った者たちだけが、その神の愛を明らかにすることができるのです。もし、教会がいかがみ合っていたらどうですか？自分のことしか考えない人たちが集まっていたらどうでしょう？

今日、私たちが見て来たことは、パウロが教えてくれた四つの特徴です。でも、この特徴はそのような神に喜ばれる信仰者たちによってもたらされています。ですから、パウロが教えていることは、主に喜ばれる教会として私たちの教会が成長していくためには、この教会を形成しているあなたに掛かっているということです。あなたがみことばの実践によって日々キリストに似た者に変えられているかどうかにかかっているということです。どうぞ、信仰者の皆さん、そのことを真剣に考えてみてください。みことばはそのように教えます。神はそのように言われます。「私はもうからだは弱いから、体調を壊しているから…」、後でもう一度見ますが、神が問われるのは、あなたがどのような状態にあっても「わたしの言うことに従いますか？」です。あなたは信仰者として成長していますか？と。

どうでしょう？私たちは信仰歴が何年などと自信をもって言えますか？そうありたいですね。でも、

年数が長くても、私たちがまだコリントの教会の人たちのように信仰的に幼子なら悲しいのです。パウロが教えているのは、信仰者とは、みことばを通してその実践によって成長し、そして、彼らはその賜物を生かして教会で奉仕をし、そして、兄弟姉妹の信仰の成長のために尽くしている者たちだということです。あなたはそういう人でしょうか？あなたはどのように歩んでおられるかどうか？

さて、ここまで来ると、皆さんのうちはだんだん苦しくなって来て「そう願うけれど、それは難しいです。」と言いますか？みことばのすばらしさは、これを記された神は私たちのことを私たち以上に知っておられるということです。だから、続けて16節を見ましょう。

C. 霊的成長のために備えられた神の助け 16節

あなたが霊的に成長するために神は助けを備えてくれているのです。そのことが記されている16節を見てください。「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」、長い文章なのでしっかり理解するためにいくつかに分けて説明します。

1. キリストによって : キリストがあなたの力であり、助けである

パウロはここで、あなたがクリスチャンとして成長していくために助けが必要だ、その助けがだれかを教えているのです。それはキリストです。主イエス・キリストがあなたの助けなのです。みことばを聞いたあなたがこの主によって成長していくのです。主の助けによって成長するのです。

私たちが覚えなければならないことは、みことばは私たちにどの方向を向いて生きていくのか、何をすべきかを教えているということです。私たちはそのことを聞いて「主よ、そのように生きていきます。」と決心します。でも、どれ程強く決心しても私たち自身ではそれを実践できません。神の助けがなくてはならないのです。それでみことばは「キリストによってそれは可能だ」と教えているのです。

2. からだ全体 :

つまり、このキリストの助けは教会の中の一部の人たちだけに与えられるとっているのではありません。全体に、すべてのクリスチャンに与えられるということです。例外はないのです。信仰歴がどれ程浅くても関係ありません。神の助けはあなたにあるのです。

3. からだ全体は、……成長して、愛のうちに建てられるのです

ここでは、からだ全体の成長が、また、愛における成長が教えられています。ずっと、私たちが学んでいるように、教会全体が霊的に成長するのです。愛において成長していくのです。そのことをパウロは言うのです。「キリストによって、からだ全体が成長して、愛のうちに建てられる、そのように成長していく」と。

これが神が為さることでありますが、皆さん見てください。ここには、そのための私たちクリスチャンの責任が記されているのです。「一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、」と書かれています。つまり、神はこのような働きをされると言われたのですが、その神の働きにおいても私たちに責任があるのです。神が100%してくださるから私は何もしません、ではないのです。神は確かに働いて事を成してくださる、でも、私たちにも責任があるのです。そのことが書かれています。一つ一つの部分、からだを構成している一人ひとりのクリスチャンたちが「その力量にふさわしく働く力により、」と、つまり、パウロが言っていることは、すべてのクリスチャンが働くことによって、奉仕のことです。今、そのことを学んで来たのです。あなたが成長することによって、あなたは自分に与えられた賜物を用いて奉仕をしていきます。パウロは教えます。神は確かに教会を成長させてくださる。しかし、その教会を形成しているクリスチャンであるあなたには責任がある。それはあなた自身があなたに与えられている賜物を用いて、奉仕をすること、働くことだと。

4. 備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わせられ、結び合わされ

これは敢えて、人間のからだをたとえに用いているのです。私たちのからだも関節や靭帯で結ばれています。それによって力ある働きができるのです。どこかが断裂しているなら働きはできません。そのからだを引き合いに出してパウロが言わんとしていることは、神は教会のうちに働いて、私たちクリスチャンを一つにして、神に用いられるように力を備え、主のみわざを為してくださる。ちょうど、からだ一つになって働いているように、教会においても神はそのような働きを為してくださるということです。

ですから、この箇所が私たちに教えていることは、あなたは賜物を用いて奉仕をすることができます。あなたは兄弟姉妹の信仰の成長のために尽くすことができます。なぜなら、その力は神であり、その神はもうすでにあなたに内住しているからです。神の助けがあなたにもう与えられているのです。神は間違いなくあなたを成長させてくださるし、教会全体を成長させてくださるのです。でも、そのために必要なことは、あなた自身が持っている賜物を用いて働くことだと言うのです。

ペテロはこのようなことを言っています。Iペテロ4:10, 11「:10 それぞれが賜物を受けているの

ですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。:11 語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。」、みなが霊的賜物をいただいているのだから、その賜物を用いて互いに仕え合っていくべきです。何のために？「それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。」と、あなたが自分に与えられている賜物を用いて働きをするときに、互いの信仰の成長のために仕え合っていくことによって全体が成長していきます。そして、そのすべてのことを通して、そのみわざを為しておられる神が誉め称えられるのです。そのために私たちは生きています。

今日、私たちは「教会の成長」ということ、神が喜ばれる教会になっていくためのそのカギを見て来ました。そのカギは人間的なプログラムではなかった。カギはあなたの成長でした。間違いなく、イエス・キリストを愛している皆さんは、みことばが教えるように生きていきたいと願っておられるはずです。ただ、残念ながら、その働きを妨げるものが皆さんの心の中に働きますね？このような働きをしていくときの一番の障害は何でしょう？

・少なくとも、その一つは「**不信仰**」です。主が言われたことをその通りに信じないことです。その人のうちには必ず「自分にはできない、無理だ」と考える正当な理由を持っています。

皆さんにチャレンジします。体調？年齢？いろいろな理由があるでしょう。だから、私にはできませんと。ぜひ、覚えていただきたいのは、あなたが神のおことばに従うまでその祝福をあなた自身はいただけないということです。なぜなら、神はあなたの年齢も弱さも愚かさもすべて知っておられるのです。その上で神は「あなたを使う」と言われたのです。幼子のような信仰を神が喜ばれるのはなぜか？幼子は言われたことをその通り信じてそれに従って行こうとするからです。残念ながら、私たちはいろいろな理屈を付けます。そして、みことばに従うのではなく、自分の考えに沿って生きていこうとするのです。ぜひ、覚えてください。「あなたは主に従うまで神の祝福をいただけない」のです。不信仰がその祝福を逃してしまっているのです。

・もう一つは「**先延ばしの罪**」です。「今はできません。もう少し待ってください。そうすればできます。」と。そこにも必ず立派な口実があります。今は～で忙しいからと。そのような人生を歩んでいる人はいないでしょうね？なぜなら、そのようにずっと先延ばしにして、気付いたときには、私は何年無駄にして来たのだろうと後悔が残ります。神は「できる」と言われました。年老いていても、からだが悪くても、寝たきりでも、余りにも忙しくて自分の時間が全くないような状態でもできるのです。私たちに必要なことは「主よ、どうぞ私を使ってください。もう時間を無駄にするのはいやです。」と。

私たちは後何年この地上にいるか分からないのです。眠りから覚めてしっかり信仰の馳せ場を走り切ることです。私たち信仰者は「主よ、あなたが与えてくださった霊的賜物を用いて、私はあなたに忠実に仕えていきます。どうぞ、あなたが約束されたように私に力を与え、私を助け、私を用いてください。」という、この祈りをもって積極的に働きに取り組んでいくことです。神は必ずあなたを使ってください。神は必ずあなたを変えていってください。そして、その結果、群れ全体が変えられるのです。

すべてはあなたから始まると聖書は教えています。ぜひ、今日から始めてください。「私を変えてください。私はあなたに従って行きますから。あなたに喜ばれる人になっていきたいから私を変えてください。」と、その祈りを為された皆さんに、神はどのように働き、どのようなみわざを為して下さるのか？期待できます。主は私たちに「成す」と言われた。その働きを期待することができます。

どうぞ、みことばに沿って生きていきましょう。神に喜ばれる人になるように、そして、神に喜ばれる教会を神が建て上げてくださるように。

《考えましょう》

1. 教会に与えられた賜物である「牧師・教師」に託された最も大切な務めは何でしたか？
2. 神がすべてのキリスト者に霊的賜物を与えられた目的は何でしたか？
3. 「霊的賜物を用いて奉仕しなくても別にかまわない」と言っているキリスト者がいるとします。この考えは正しいのでしょうか？その理由も書いてください。
4. だれでも、霊的賜物を用いて奉仕することは可能なのでしょうか？そのために必要なことを記してください。